

啐啄同時

校長 神田 豊

昨年の今頃、私は酉年に因んで「啐啄同時・そったくどうじ」ということを思い浮かべ、そのつもりで児童生徒や教師にかかわろうと思っていました。

啐啄同時とは禅のことですが、親鳥の子育てに関することで、卵の中の雛が外に出ようとして内側から殻をたたく（啐）と、同時に母鳥も外側からコンコンと叩いて（啄）殻を割り、雛が外に出るのを助けるという意味があります。もし、親鳥が一瞬でもそのタイミングをあやまると、中の雛の命があぶない状況になり、啐啄は一番大事なその時に同時に起こす必要があります。私は親鳥になったつもりで支援していこうと決めたのでした。しかしながら、その結果は、ほとんどは私が先行してしまったり、後手になってしまったりなど苦い経験となってしまいました。タイミングを逃さずに絶妙な機会に手を差し伸べていく、今後も私自身のテーマだと感じています。

さて、長い2学期、様々な行事や活動があり児童生徒が大きく成長した学期となりました。10月21日（土）には恒例のパワー祭りがありました。今年は「えがおでいればみんながハッピー」のテーマのもと、実行委員会の児童生徒たちが中心になり準備を進めました。当日は、小学部によるステージ発表、中学部、高等部による作業製品販売、実演等のイベント広場では、日頃の学習の成果を十分に発揮できたものとなりました。また、保護者の皆様はじめ、地域やボランティアの方々のご協力により、笑顔が絶えないすばらしいパワー祭りになったと思っています。

この他にも、小学部6年生、中学部3年生、高等部2年生の修学旅行、交流及び共同学習では小学部と神指小学校、中学部と学鳳中学校、高等部窯業班や農芸班での会津工業高校、会津農林高校と行われました。また、中学部の校内実習や高等部の産業現場等における実習等、児童生徒たちは様々な活動を通していっそうたくましくなったと思います。

3学期は総まとめの時期になります。「啐啄同時」を肝に銘じながら、教育活動がより充実したものになるよう努力してまいります。

地域支援センターあいづより

地域支援センターあいづの取り組みについて

「地域支援センターあいづ」では、校内・地域に向けて以下のような取組を行っています。特に今年度は、研修部と共同で「授業に役立つ教材教具資料ライブラリー」を作成しました。先生方が作成した教材教具を学校のホームページ上に掲載していますので、ぜひご覧ください。また、地域の相談支援では、高校からの相談依頼も増え、出かける支援や情報提供など行っています。

＜校内支援＞

- 児童・生徒・保護者教育相談
- ケース会議・支援会議
- 「ホッとサークル」保護者支援
- サービス担当者会議調整協力
- B型アセスメントに関する会議

＜出かける支援＞

- 幼稚園、保育所、小・中学校 高等学校への相談支援
- 幼稚園、小・中学校等への研修支援
- 各関係機関企画の研修支援

＜広報＞

- HPによる情報提供
- 掲示板による情報提供



＜来校相談・電話相談＞

- 外部からの相談
- 検査器具の貸し出し

＜校内への理解啓発＞

- 地域支援センターあいづ通信の発行
- ・「笑顔のかけはし」保護者向
- ・「未来へのかけはし」教職員向

＜あそびの教室＞

- 未就学児とその保護者対象に年8回開催。

＜自立支援協議会等への参加＞

- 会津若松市自立支援協議会（療育部会、ワーキンググループ、就労部会）
- 喜多方市自立支援協議会（子ども部会、就労部会）
- 下郷町のびゆく子ども支援事業
- 会津障がい保健福祉圏域連絡会 他

＜センター的機能の周知＞

- 各市町村教育委員会、事業所等へのセンター的機能の説明とリーフレット配布
- 校長会での案内とリーフレット配布

小学部 神指小学校との交流及び共同学習

神指小学校と本校小学部との交流学習は、20年以上続いています。今年も本校にて、4、5、6年生が、学年同士での交流学習をしました。「ようこそ」の看板を作って準備は万端。何日も前から心待ちにしていた笑顔で出迎えた児童、少し緊張気味の児童とさまざまでしたが、活動場面では、神指小の児童が考えたゲームをしたり、互いに学習していることを発表し合ったりして、楽しい時間を過ごしました。ゲームを楽しんでもらいたいと工夫する神指小の友達の姿や、やりとりをする中でしっかりと自分の気持ちを伝えている本校の児童の姿などが見られ、それぞれの子供も達がとても頼もしく感じられた交流学習でした。「また会おうね。」と再会を誓って、見送りをしました。



高等部 ～～知・徳・体 「たくましい生徒の育成・・・」～～

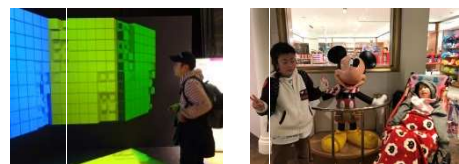
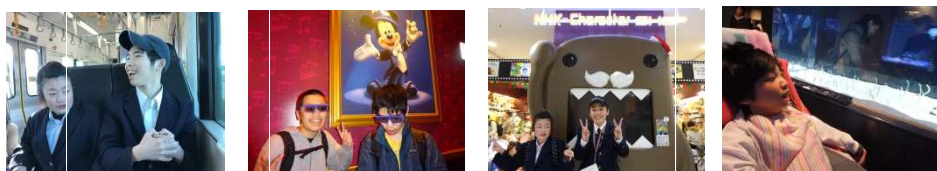
教育目標を、あらためて自問してみました。(全段略)「たくましい生徒の育成」です。「たくましい」とは一体どのような意味なのでしょう。そこで生徒たちの春からの活動をざっと振り返ってみました。書ききれないほどの多くの活動がありました。

「毎日の朝のスポーツタイム」、「教科学習」、軸である「作業学習」と「校内の実習」、それに関連した作業技能大会とアビリンピック大会。障がい者国体出場やアビリンピック初の全国大会出場。それぞれ素晴らしい結果を残しました。そして各種の校外学習と終了したばかりのスポーツフェスティバル。

日々目を見ると、突然の体調不良と長引いた入院から再登校の喜び。いらするストレスへ向き合う自己調整力。友達とのトラブル、先生との相談時間、両親との進路の話し合い、難しさをかかえる登校事情、事業所さんとの連携。こうしてみると、生徒たちは日々、もがきながらも自己実現に向かって一歩ずつ進んでいるように感じますが、新たな課題もみられます。

さて、生徒たちの「たくましさ」とは何か?。「知」「徳」「体」の意味を再考する時がきています。保護者の皆様をはじめ関係者の皆様のお考えをお聞かせいただければ幸いです。

中学部 「3学年 修学旅行」



新幹線やバスに乗り、すみだ水族館や東京ソラマチ、東京ディズニーランド、ソニーエクスプローラーサイエンスに行ってきました。様々な体験や見学を通して、生徒達は、また一回り成長したように感じます。

パワー祭り

実行委員会より

えがおでいればみんながハッピー

10月21日に「えがおでいればみんながハッピー」のテーマのもと、聴覚支援学校会津校・会津支援学校合同文化祭「パワー祭り」が行われました。児童生徒実行委員会の児童生徒を中心に、夏休みからビックアートの準備、くす玉作り、集会活動に向けての練習、街頭宣伝等を行ってきました。パワー祭り前日の「パワー祭り頑張ろう会」では、大きくくす玉を割って開会宣言をし、テーマをイメージしたビックアートが披露されました。会場が一つとなり、パワー祭りへの期待を一層盛り上げるものとなりました。当日は、600名を超える方々に来校いただき、日頃の学習の成果を発揮する子ども達の様子をみていただく良い機会となりました。たくさんの方々の支えがあり、子ども達の笑顔あふれる文化祭となりました。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

